



3×10サイズのカナダ産OSBを一階壁に 施工性と躯体の強度が向上

エネルギー価格高騰と記録的な寒波によって、家庭の光熱費はかつてない高水準に達している。住宅の性能と快適さが強く求められる時代になり、高性能住宅づくりの先頭に行く北海道・十勝の動向から目が離せない。地域ビルダーの石井建設は、カナダ産 OSB を活用し、ツーバイフォー工法による快適かつ費用対効果の高い住宅づくりで 30 代前後の若い世代から支持されている。



壁をパネル化することで建て方の期間を短縮、当日に長尺のカナダ産 OSB を張って躯体を固める

精度が高い躯体を実現するために

冬季は零下 20 度程度は連日のように下がり、逆に夏季は最高気温 30 度に達する、そんな十勝で住宅づくりをする同社が大切にしているのが施工精度。住宅づくりは高性能になるほど高い施工技術が求められる。同社では信頼できるパネル工場と綿密に打ち合わせをして躯体をパネル化し、現場における建て方の期間を短縮して雨や雪で濡れる期間を最小に抑えている。工場から現場に搬入された壁パネルは、細かく位置を調整して精度を高めてから面材の OSB を釘打ちして固定する。「躯体の品質は当社の強みでもあります」と石井靖久社長（顔写真）は話す。



長尺のカナダ産OSBで施工性向上

その際、土台から二階床まで一気につながられる 3×10 サイズ 9mm 厚のカナダ産 OSB を一階壁に施工し、二階壁は 3×8 サイズの OSB を施工している。「2×4 工法は壁でもたせる構造なので、下から上までつながればより構造的に強くなり、帯金物も省略できます」と石井社長。カナダ産 OSB は長尺サイズであっても価格や調達面で優位性があり「OSB は当たり前の感覚で必ず使っています。強度が出ることもわかっていましたし、価格も割安です」（石井社長）。高い精度で施工した 2×6 材の壁内に高性能グラスウールを 140mm 丁寧に充填することで、付加断熱なしでも快適に暮らせる住宅が完成する。



窓周りの丁寧な気密施工や、高い精度の断熱施工があってこそ、正しい断熱性能が発揮される



カナダ産 OSB を壁に採用する同社の家づくり

高性能住宅こそ基本に忠実に

住宅の性能がこの水準になると、輻射熱でやさしく温めるセントラルヒーティングのパネルヒーターが導入でき、浴室を含めた家全体で温熱環境が向上する。真冬であっても不快な寒さやヒートショックとは無縁の、足元から暖かい快適で健康的な住宅となる。

同社では、石井社長の目が届く範囲で一軒一軒丁寧な住宅づくりを目指しており、年間 3 棟程度をめやすにして受注するようにしている。建て主は 30 代前後の一次取得層が 8 割ほどで、若い世代が多い。十勝 2×4 協会の会員として技術の研鑽と勉強を怠らない真摯な姿勢が地域の建て主からの支持を得ている。基本に忠実な丁寧さが構造的に強かつ快適な住宅づくりにつながっていて、カナダ産 OSB の活用はその要素になっている。



株式会社石井建設

本社：北海道帯広市西 17 条南 4-42-23
代表：石井 靖久（代表取締役）
HP：www.ishii-kensetsu-obihiro.com
Email：ishii-construction@outlook.jp
木造高性能住宅の本場・帯広とカナダで大工と家づくりの修行を積んだ石井社長が 2005 年に創業。